



子どもたちの笑顔がいつまでも続くように 河井先生ご夫妻から原水禁大会参加の感想をいただきました

河井英二先生、河井龍子先生ご夫妻から、原水禁大会参加の感想を送っていただきました。とても感動的な文章ですので、紹介します。

河井先生ご夫妻は、各地で行われている戦争法案反対の取り組みに参加して、大忙しの日々を送っています。そうした取り組みへの思いも、感想の中に書かれています。



この夏「平和」の大事さを感じた

河井 英二

二度目の原水禁世界大会への参加となりました。一度目は、35年前だったろうか。今回も同じような暑い夏の日差しの中、開会式、呉軍港視察、記念式典、閉会式、灯籠流しと日程をこなしました。

被爆・戦後70年たった今も「核兵器廃絶」の運動が続いています。被爆国として、全世界に対し先頭にたって訴えなければと思うのですが、日本政府の態度は、……。被爆者の生の声、俳優の宝田明さんの戦争体験など日常生活では、経験できない貴重な話を聞くことができたことに感謝します。

資料館の展示を直視できない自分・「人と人が、殺し・殺される」道を選ぶのは、子どもにだって悪い・間違ったことだと分かるのに。「積極的平和主義」の名のもとに自衛隊を海外へ派兵するなんて、許される筈もありません。平和祈念公園では、高校生が「核兵器廃絶」の署名運動を行っていました。そして、外国の方々もたくさん訪れていました。それぞれ自分の目と耳で、「平和」などについて何かを感じとっているのだと思います。式典での安倍総理の発言には、「核兵器廃絶」への強い意志も、戦争を世界中から無くしていくことの重要性を感じ取れるような話になっていません。

一人一人の小さな思い・行動が、大きなうねりを作っていくと思います。人間同士が「殺し合う」道を決して歩んでは、いけません。私も自分のできることを少しでも行動にと考え、ちょっと一歩踏み出しました。時には、真面目に「平和」のことを考えるのもよいものですね。

原水禁世界大会に参加して

河井 龍子

「…私は、四月からみんなの笑顔がいつまでも続くことができるお手伝いをしていると思っています。」三月離任式の最後に子ども達に私の決意を伝え教壇を去りました。そんな大それたことを考えていた訳ではありませんが、常に前向きでありたいという、些細な気持ちからです。七月、安保法案反対の駅前集会が始まりました。居ても立ってもいられない戦争体験者の方達が、仕事帰りの人達が集まってきます。そんなさなか、原水禁大会のお話をいただきました。暑い広島です。さてどうしたものか。戦後70年、そしてこの情勢を考えると行くべきでは、そう判断し鉤根代表団に名を連ねることにしました。

初めての広島は沢山の人でいっぱいです。平和記念館は次々とバスが止まり世界中から若者が降りてきます。中は進むこともままならない状態、また来ようと決意し記念館を後にしました。今ここにいる多くの人たちはそう簡単に何度も来るわけにはいかないだろう。この、ヒロシマの姿を見て行ってほしい、伝えてほしいと思わずにはいられませんでした。

世界大会に参加したことで核廃絶に向けて世界は動いていることが確信できました。核と人類は共存できない、平和を守ることはできない。世界中の人が言ってるんです。思っているんです。広島、長崎の姿を見たら誰でも思うでしょう。核兵器はいらないと。世界中の人が平和を願っています。それから私は、福島のことも考えました。いまだ原因も責任も明らかにならないのに、川内の再稼働が始まってしまいました。安全なんて誰が保証するのか。国が国民の事を考えているなんて信じられません。私は何でもない日常生活を日々過ごせることそれだけが願いですし、そのことが平和に生きることに繋がると考えています。

今大会の中で誰もが一番心配していること、それは安保法案のゆくえです。安倍内閣は戦争ができる国にしようとしています。憲法九条があったことで日本は他国との争いをしないできました。私の中にはいつも日本は平和な国であると思いつけてきました。それが危なくなる？そんなことがあるはずはないと信じてきましたが安倍政権の傲慢なやり方にあきれ果て危機感を感じています。そして、多くの人達が反対の声を上げています。若者が死んでもいいし、殺してもいい！一たび戦争が始まったら止めることは難しいでしょう。今ならまだこの火の粉を消すことができます。三十年たって戦後百年のお祝いをしたいと若者は言います。私は生きて迎えることは難しい気がしますがその、お手伝いをしたいと思います。

先生方に訴えます。ぜひ、原水禁大会に足を運んでみてください。自分の目で原爆ドームを見てください。被爆された方の話を聞いて下さい。暑い暑い広島の朝、一発の爆弾で木の葉のように焼かれ死んでいった人達を、今なお、苦しみながら生きている人達がいることを、想像してみてください。此処にきて、感じ、伝えてほしいと思います。

